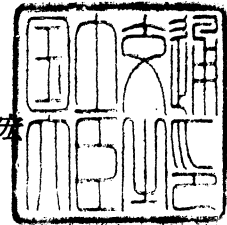


認定書

国住指第 1974 号
平成 25 年 10 月 17 日

吉野石膏株式会社
代表取締役 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第二号（間仕切壁（非耐力壁）：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060NP-0360
2. 認定をした構造方法等の名称
片面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

片面強化せっこうボード重張/軽量鉄骨下地間仕切壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
① 下 地 材 用 面 材	強化せっこうボード 規格：不燃材料認定番号 NM-8615 (GB-F (V)) 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエア、テーパ又はベベル 厚さ (mm)：21・25±0.5 かさ比重：0.75 以上 大きさ (mm)：606 (±3) ~1,210×1,820~4,500 (±3) (*大きさは一般部における寸法を示す。)
② 下 地 材	材料名及び規格：a から f のいずれかによる。 a. 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) b. 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3313) c. 溶融アルミニウムめっき鋼板 (JIS G 3314) d. 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) e. 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) f. 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板 (JIS G 3323) 形状・寸法 (mm)：a 又は b のいずれかによる。 a. □-100 (±0.5) ~1,000×35 (±1.0) ~75、厚さ 0.5 以上 b. □-100 (±0.5) ~1,000×35 (±1.0) ~74×36 (±1.0) ~75、厚さ 0.5 以上
	下部ランナー 材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 形状・寸法 (mm)：a から c のいずれかによる。 a. □-100 (±0.5) ~1,000×35 (±1.0) ~75、厚さ 0.5 以上 b. □-100 (±0.5) ~1,000×35 (±1.0) ~74×36 (±1.0) ~75、厚さ 0.5 以上 c. □-100 (±0.5) ~1,000×35 (±1.0) ~75、厚さ 0.8 以上 取付け方法 上記 c の形状のランナーを用いる場合は間柱 (スタッド) の下部をタッピンねじ 又はリベットで留付ける。
	間柱 (スタッド) 材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 形状・寸法 (mm)：a 又は b のいずれかによる。 a. □-100 (±0.5) ~1,000×45 (±1.0) ~75、厚さ 0.5 以上 b. □-100 (±0.5) ~1,000×45 (±1.0) ~75×9 (±2.0) ~49、厚さ 0.8 以上 取付け間隔 (mm)：606 以下
	振れ止め (必要に応じて取付ける。) 材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 形状・寸法 (mm)：a 又は b のいずれかによる。 a. □-19 (±1.5) ~50×10 (±1.5) ~20、厚さ 0.4 以上 b. □-19 (±1.5) ~50×10 (±1.5) ~20×5 (±1.0) ~20、厚さ 0.4 以上

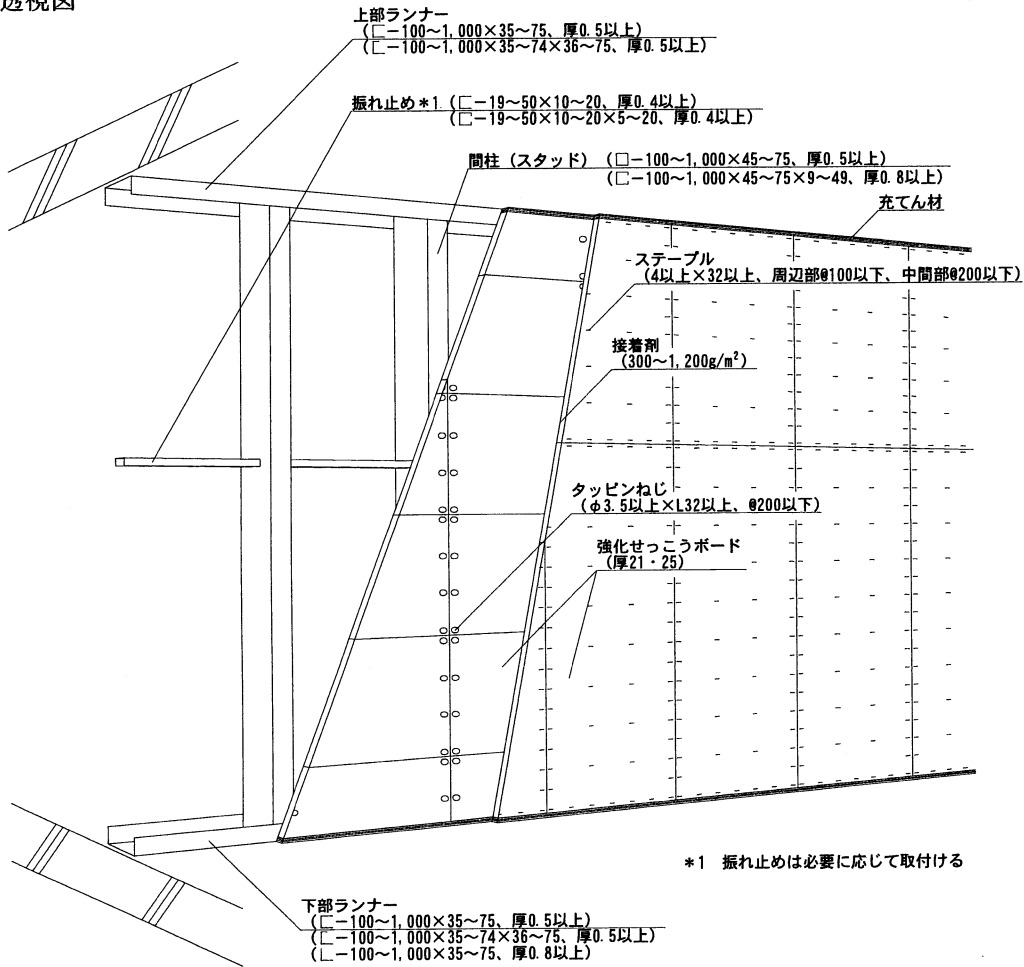
項 目	製 品 仕 様
③ 副 構 成 材 料	<p>間柱(スタッド) 用スペーサー (必要に応じて 取付ける。)</p> <p>材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部ランナーに同じ。 厚さ(mm) : 0.4 以上</p>
	<p>敷目板(必要に 応じて取付け る。)</p> <p>種類等 : 下記のいずれかによる。 せっこう板、せっこうボード、強化せっこうボード、不燃積層せっこうボード、 繊維強化セメント板、グラスウール(10 kg/m³ 以上)、ロックウール(10 kg/m³ 以 上)、グラスファイバーフェルト(10 kg/m³ 以上)又はロックウールフェルト(10 kg/m³ 以上) 寸法(mm) : 厚さ 1 以上、幅 40 以上</p>
	<p>タッピンねじ、 ステーブル、接 着剤等</p> <p>下張り材取付け用 タッピンねじ 寸法(mm) : φ3.5 以上×L32 以上 留付け間隔(mm) : 200 以下</p> <p>上張り材取付け用</p> <p>a. ステーブル 寸法(mm) : 幅 4 以上、長さ 32 以上 留付け間隔(mm) : 周辺部 100 以下、中間部 200 以下</p> <p>b. 接着剤 種類 : 下記のいずれかによる。 酢酸ビニル樹脂系、アクリル樹脂系、ウレタン樹脂系、エポキシ樹脂系、 ポリアミド系、ポリサルファイド系、シリコーン系、合成ゴム系、せっこ う系又は炭酸カルシウム系 塗布量(g/m²) : 300~1,200 塗布間隔(mm) : 周辺部 100 以下、中間部 200 以下</p> <p>c. タッピンねじ 寸法(mm) : φ3.5 以上×L50 以上 留付け間隔(mm) : 1,800 以下</p> <p>取付け方法 上記 a と b で下張り材に取付け、必要に応じて、c を併用して、間柱(スタッ ド)に取付ける。</p> <p>間柱(スタッド)の L 形下部ランナーへの取付け用</p> <p>a. タッピンねじ 寸法(mm) : φ4.0 以上×L13 以上</p> <p>b. リベット 寸法(mm) : φ2.8 以上</p> <p>取付け方法 上記 a 又は b のいずれかで L 形下部ランナーに取付ける。</p>

項 目	製 品 仕 様
③ 副 構 成 材 料 タッピンねじ、 ステーブル、接 着剤等	敷目板仮留め用 a. タッピンねじ 寸法(mm)：φ2.8以上×L10以上 b. 粘着テープ又は両面粘着テープ 粘着材の種類：下記のいずれかによる。 アクリル樹脂系、ポリアミド系、天然ゴム系又は合成ゴム系 寸法(mm)：厚さ3以下、幅75以下 c. 接着剤 種類：前記の上張り材取付け用接着剤に同じ。 塗布量(g/m ²)：400以下 取付け方法 上記 a から c のいずれかで間柱(スタッド)、上部ランナー又は下部ランナー に取付ける。
壁端部(柱・はり 等との取り合い 部)の仕様及び その処理材(充 てん材)	下張り材又は上張り材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける 場合は、それぞれの目透かし幅は10mm以下とし、目透かし部には、次の a から c のいずれかを充てんする。 充てん厚さは、下張り材は21mm以上、上張り材は21mm以上とする。 a. シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、 ポリイソブチレン系、シリコーン系又は変成シリコーン系 b. ロックウール、ロックウール保温板、ロックウールフェルト、ロックウール モルタル又はグラスファイバーフェルト 密度(kg/m ³)：10以上 c. せっこう系又は炭酸カルシウム系無機質充てん材

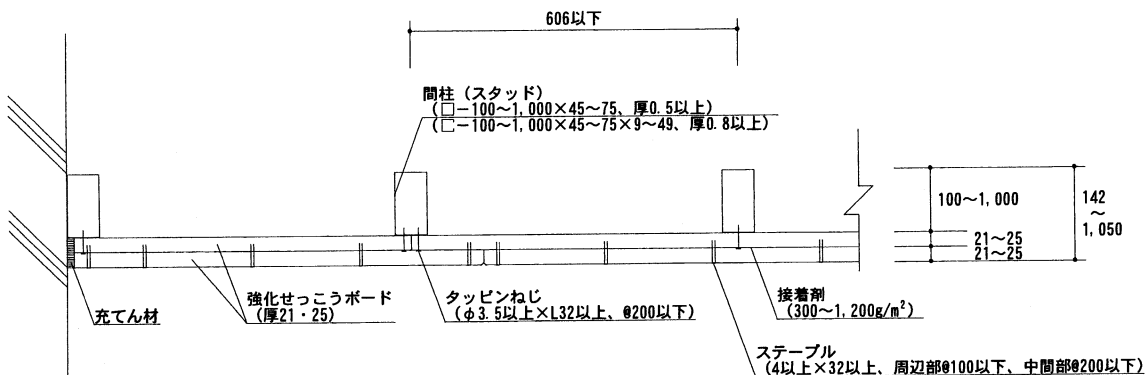
4. 構造説明図

(単位：mm)

(1) 透視図



(2) 水平断面図

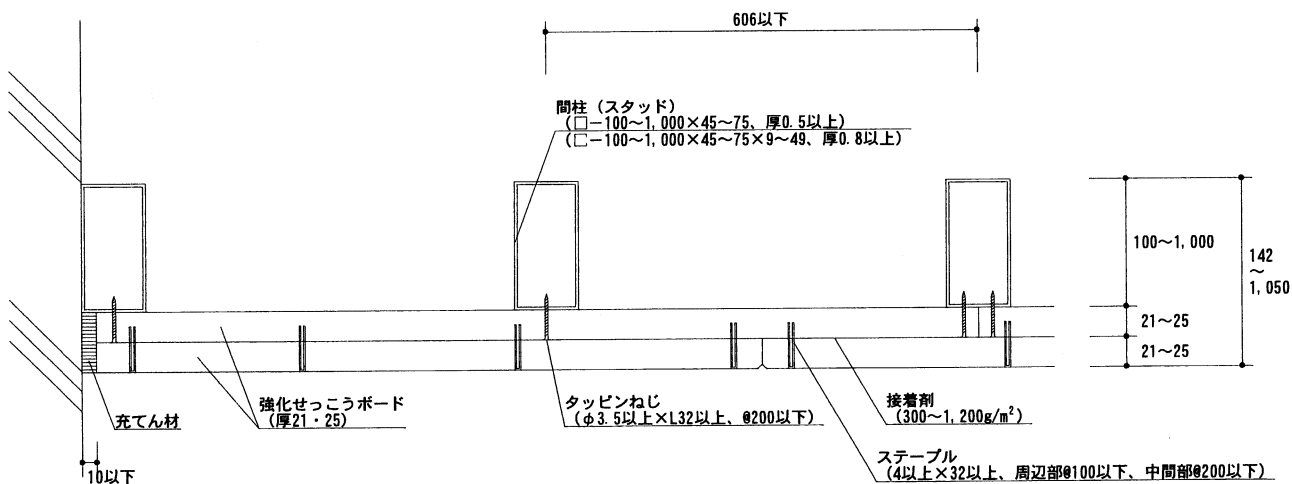
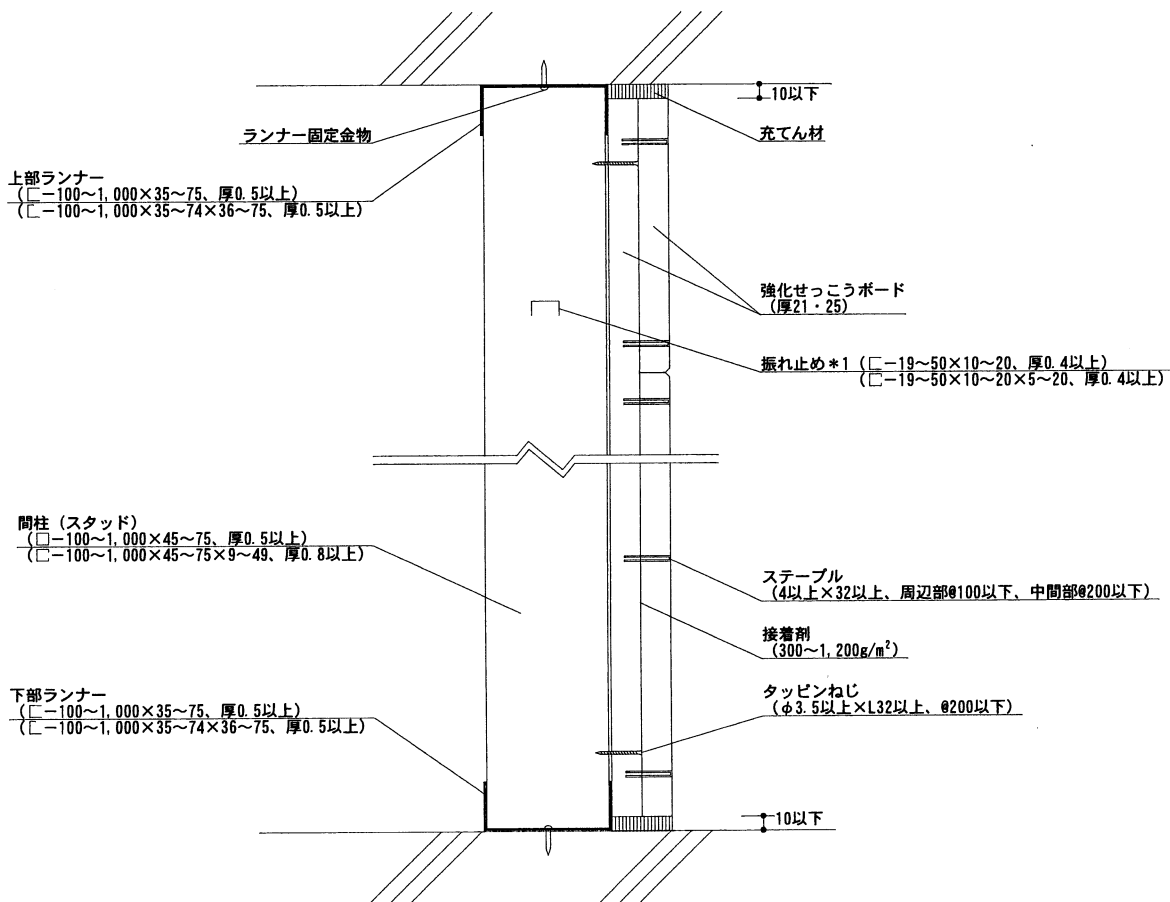


(3) 断面詳細図

①下部ランナーが□形又は□形の場合

①-1 敷目板無し

(単位 : mm)

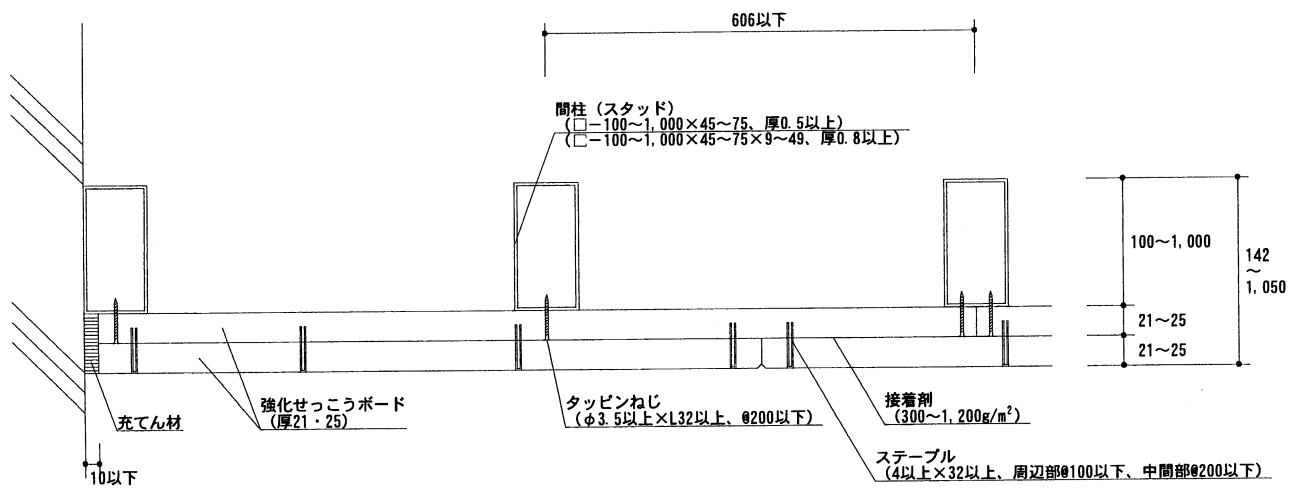
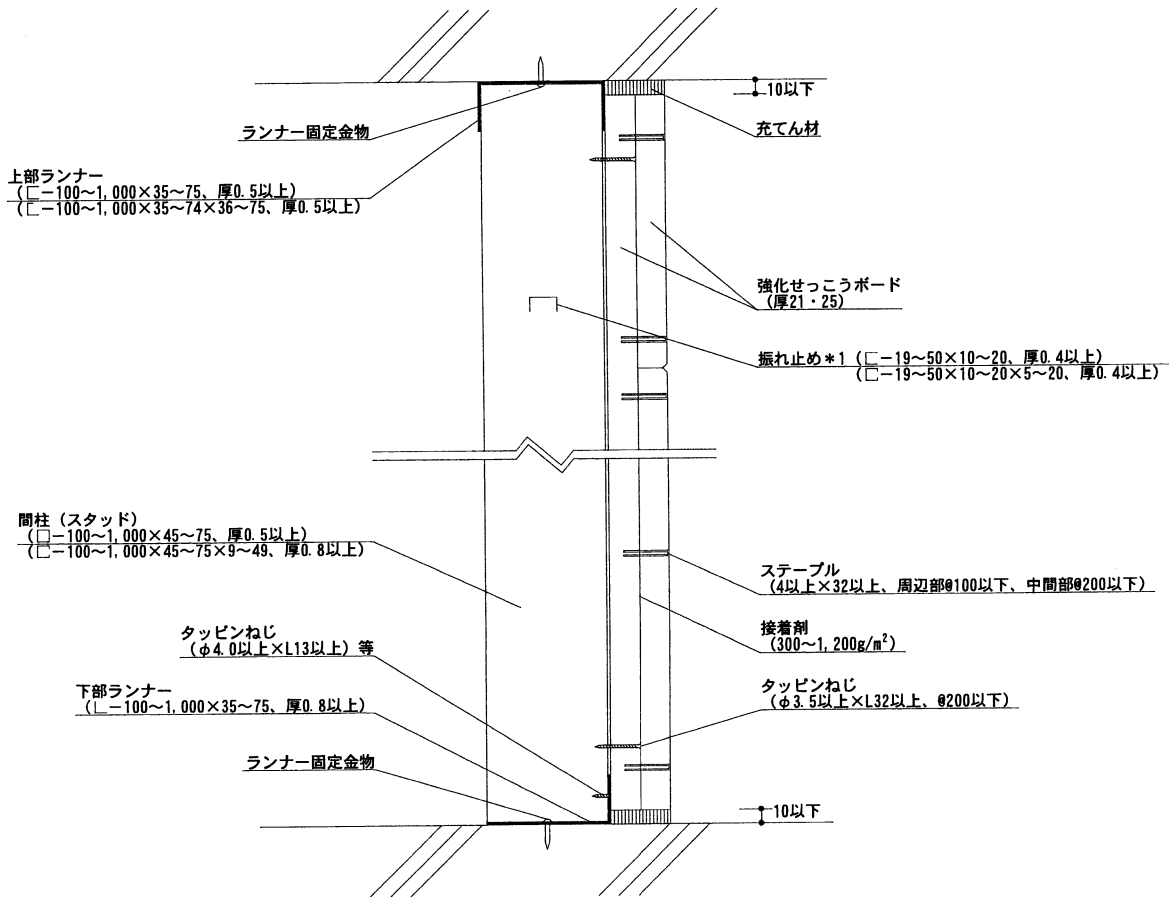


*1 振れ止めは必要に応じて取付ける

②下部ランナーがL形の場合

②-1 敷目板無し

(単位 : mm)



*1 振れ止めは必要に応じて取付ける

5. 施工方法

(1) 上部及び下部ランナーの取付け

上部及び下部ランナー（以下、上下ランナーという）を取付ける位置に墨出しを行う。上下ランナーは、躯体にランナー固定金物（打込みピン、ボルト、ねじ、くぎ、バッファーピン等）、或いは溶接にて（必要に応じてランナー受けピースを介して）、900 mm以下の間隔で取付ける。

(2) 間柱（スタッド）の取付け

間柱（スタッド）をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、606 mm以下の間隔で上下ランナーに差し込んで取付ける。上部ランナーと間柱（スタッド）との間のクリアランスは15 mm以上確保する。なお、下部ランナーにL形ランナーを用いる場合は、間柱（スタッド）の下部をφ4 mm以上×L13 mm以上のタッピンねじ又はφ2.8 mm以上のリベットでL形ランナーに取付ける。

□形タイプの間柱（スタッド）を使用する場合は、必要に応じて間柱（スタッド）用スペーサーを挿入する。

(3) 振れ止めの取付け

必要に応じて、振れ止めをあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、間柱（スタッド）の側面の切欠き部に差し込んで取付ける。

(4) 敷目板の取付け

必要に応じて、敷目板をタッピンねじ、粘着テープ、両面粘着テープ又は接着剤で間柱（スタッド）又は上下ランナーに仮留めする。

(5) 下張り材の取付け

下張り材を、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、ボード表面を間柱（スタッド）に向けてφ3.5 mm以上×L32 mm以上のタッピンねじで200 mm以下の間隔で間柱（スタッド）に留付ける。

(6) 上張り材の取付け

上張り材は、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断する。接着剤を上張り材の裏面に塗布する。この時、接着剤の塗布間隔は周辺部100 mm以下、中間部200 mm以下とし、接着剤の塗布量は300～1,200g/m²とする。

上張り材は、その目地が下張り材の目地と重ならないよう配置し、幅4 mm以上、長さ32 mm以上のステーブルで周辺部100 mm以下、中間部200 mm以下の間隔で下張り材に取付ける。

必要に応じて、タッピンねじで1,800 mm以下の間隔で間柱（スタッド）に留付ける。

(7) 壁端部の処理

下張り材又は上張り材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、目透かし幅を10 mm以下とする。目透かしを設けた場合の下張り材及び上張り材の目透かし部には、処理材（充てん材）を充てんする。充てん厚さは、下張り材、上張り材共に21 mm以上とする。